

○伊佐 優未乃さん

今回私はハワイ研修に参加するにあたって、英語でのコミュニケーション力の向上や異文化の交流、日本とアメリカの医療制度について学ぶといった目的を持って研修に臨んだ。今まで授業で学んだだけの英語力である私にとって、英語が飛び交う環境の中での実践的な英語はとても大きな学びになった。初めは英語を聞き取るだけで一苦労していたが、徐々に耳も慣れ始め、理解できている自分の成長が見えて嬉しかった。伝えたくても語彙力不足で伝えきれない場面が何度もあったが、ジェスチャーや単語単語でも伝わり、コミュニケーションを取ることが出来るということを実践の中で学ぶことができ、また恐れずに喋ることの大切さについても学ぶことができた。異文化についても、フラダンスや Lomi Lomi massage などハワイ文化に触れる機会を通して新たな発見があり、時間がゆっくりと流れている所や島の人々が誰に対しても温かく接してくれる所など、どこか沖縄に似た雰囲気を感じることもあった。また、ハワイでの生活を通して食事や言葉の違い、文化の違いからカルチャーショックを感じることもあり、沖縄のよさ、日本の良さに気付く機会ともなった。医療制度についても、事前学習や講義、病院見学などを通してしっかり学ぶことができた。

この他にも3週間の充実した研修では、たくさんの貴重な経験を通して多くのことを学ぶ機会になった。まず、カウアイ島での生活では多くの KCC の職員の方々に親切にして頂き、支えてもらった。初日には歓迎会を開いて夕食をご馳走してくれたり、視察の際の送迎のバスの手配や病院見学の際には一緒に同行して説明をしてくれたり、またコンドミニアムでの生活だったため食材の調達のために車を出してスーパーに連れて行ってくれたり、毎日フルーツや食材などの差し入れをしてくれたり、これまで私たちのために多くの方が動いて支えてもらっていたことに感謝し、人と人とのつながりの大切さなどを学ぶことができた。また、ホームステイ先でも私たちを家族のように迎えてくれ、手料理をご馳走してくれたり、観光やショッピングなどにも連れて行ってくださったお蔭で毎日を楽しく充実して過ごすことができ、心に残る思い出となった。特に、ホストファミリーにお好み焼きとちんすこうを作って振る舞った時「おいしい！おいしい！」と言ってとても喜んでくれたことは忘れられない。オアフ島では約3日間の自由時間が設けられ、買い物や観光など自分たちで計画して行動することになっていたのだが、初めての場所ということもあり、分からないことばかりで最初は不安でいっぱいだった。しかし、グループ同士でガイドブックなどの情報を共有しながら目的地までのルートを事前に確認し日程を立てたり、店員や地元の人に積極的に聞いてみたりと自分自身で考えて行動した経験は、私自身の成長に役立つものとなった。コンドミニアムでの生活は自炊や洗濯などの家事も自分たちで行うので自立心が芽生え、生きる力も高めることもできたのではないかと思う。また研修を通していく中で、チームワーク力も高まり、お互い仲も深めることができた。

今回の研修で得たものは自分自身の成長に繋がるものばかりであり、今後の自分自身に活かしていきたい。また、今回の経験を自分だけに止めるのではなく、周囲の友達や家族にも伝え学びを分かち合っていきたい。

○兼島 利奈さん

私は入学当初からハワイセミナーに参加したいと思っていた。その理由は旅行では体験できない文化や医療について学びたいと考えていたからである。英語が苦手で上手く話せるか、聞き取れるか、理解できるかなどの不安もあったが、英会話やアメリカの医療についての事前学習があったため、少し不安を軽減して研修に挑むことが出来た。ハワイに着いた初めの1週間は、授業や施設見学では電子辞書を使用しながら、必死に聞いているだけで質問をする余裕などなかった。しかし、英語の環境に慣れ、講義の内容が少しずつ聞き取れるようになってきた。簡単な質問や答えを英語で出来るようになった。さらに宿泊施設での夜のミーティングで、メンバーで疑問点を話し合い、授業や施設見学などの理解を深めることが出来た。今回のハワイ研修ではアメリカの医療制度や文化について理解を深めることができたと思う。事前に医療制度について学習していたが、さらに入院日数や医療費について具体的な講義を受けると、日本よりアメリカの入院日数は短く、診察と治療、入院費用は高い、そして必要時に日本のように医療を受けることが出来ないという現状を学んだ。アメリカは治療をするため医療費を使い、日本は予防するために医療費を使用している。また看護や看護教育にも日本と違いがあると感じた。病院などの医療施設を見学していると、ハワイの病院の雰囲気明るく、飾り付けが多い場所が多く、また説明をした看護師たちは自分の職業に誇りを持っている気持ちが強く伝わった。看護師と関わる人たちとの関係がとても友好的だと感じた。看護教育でも、アメリカの医療状況は状態が悪くなってから入院するため患者との関わり方よりも技術のほうに力を入れているように感じた。今回の研修でアメリカと日本の看護に対して利点、欠点はそれぞれあるが、文化と価値観から出来たものであると学ぶことができた。

また、私がこのハワイ研修で強く感じたことは、人の繋がり大切さである。カウアイ島では、多くの教員や学生と関わる事が出来た。私に伝わりやすく簡単な英語で話し、私の話を一生懸命聞いてくれた。私も出来るだけ英語とボディランゲージを取り入れて伝えるように工夫をした。KCCの先生方からは毎回のように差し入れがありいろいろな場面でサポートがあった。ホームステイ先でもハワイの文化に触れられた楽しい時間を過ごすことが出来た。そして引率の先生方の支えや見守りの他にも、一緒に参加したメンバーからも多くの支えをもらった。それぞれからの支えがあったからこそ安心して有意義な3週間の研修を過ごせたと思う。今回のハワイ研修に関わった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいになった。人との繋がりを大切にしたいと強く感じた3週間であった。ありがとうございます。この3週間の体験から学んだことを取り入れ活かし、良い看護を提供できる看護師になれるよう勉強していきたいと思う。

○金城 真実さん

私は異国の文化を感じる事が好きである。そのため今回の研修にも有意義な体験が出来る事を期待して参加を決めた。研修に参加してみると個人旅行では出来ない多くの体験をする事が出来た。

最初に訪れたカウアイ島では沖縄に似た環境に安心感をおぼえた。のんびりと穏やかに流れる時間や親切な人に囲まれ海外に居るという緊張感をほぐす事が出来た。初めのうちは英語を話す事を躊躇していたが、私の話す片言の英語にも親切に耳を傾け時間をかけて話を聞いてくれるカウアイの優しい人々に出会う度に話す事に楽しさや喜びを感じられるようになった。ホームステイでは特に英語を話す機会が多く、伝わらない時にはボディランゲージも交えて交流を楽しむ事が出来た。コミュニケーションのために英語が必要である事は確かだが、話す事以外にも一緒に楽しい時間を共有する事もコミュニケーションになるのだと強く実感する事が出来た。フレンドシップハウスでは、障がい者施設のあり方について日本との大きく異なることに気付き、感銘を受けた。日本の障がい者支援施設は、施設自体が働く場となっている。しかしフレンドシップハウスでは、就業段階を3つに分けており、最終目標は地域の職場で働けるよう支援するという活動を展開していた。障がい者が本当の意味で地域で生活しているような印象を受けた。また、障がい者を職場に受け入れてもらうためのフレンドシップの工夫にも感動した。雇っているフレンドシップ利用者が急遽、休みを希望した場合は別の利用者で同じ能力をもつ者が代わって出勤する事で受け入れ先への負担を減らす等信頼関係を築く為のしくみが出来ていた。また、ロミロミマッサージやフラダンスの授業を通してハワイ独特の文化にも触れる事が出来た。

オアフ島では、世界に散りぢりになった沖縄人の状況について学ぶ事が出来た。沖縄戦については小・中・高と平和学習の時間が設けられている。戦争によって世界の国々に散らばることとなった沖縄人の歴史や心情については初めて学ぶ事であり衝撃を受けた。ハワイに移住した沖縄人が沖縄人である事に誇りを持って苗字を変えていた事を聞いた時、アイデンティティを失う辛さを思い悲しくなった。また沖縄で生活していた沖縄人も方言札の制度が出来たりと多くの苦しみを感じていた事を知った。方言を話すと方言札を首からかけるという辱めを受ける事になっており、札を持っている事が恥ずかしく、クラスメイトに何とか札を渡そうとする生徒が多くいた説明を聞いた時、クラスの雰囲気も異様なものであった事を想像する事が出来た。また、世界うちなんちゅ大会が現在もなお盛大に行われ続けている理由や沖縄人が沖縄を愛する理由、団結力の強さを感じる理由について多くの苦しみを乗り越えてきた仲間である事から理解できることだと感じた。長年に渡り戦争の被害に苦しんだ沖縄だからこそ平和の大切さを発信出来、またその役割を担うべきだと感じた。

ハワイの保健福祉制度や医療事情を学ぶ講義でも大きな驚きを感じた。病院やホスピスなどの施設見学では日本では見たこともない最先端医療機器が多くあった。しかし医療が進歩する中、その医療を必要とする人に提供できているのか疑問を抱いた。それは、福祉制度が整っていないような印象を受けた。アメリカには皆保険制度がなく政府が運営している保険に加入できる人はごくわずかである。また国民の16%が医療保険でカバー出来ないと言われており、医療や看護を受ける為の制度のあり方に疑問を持った。最先端医

療機器を取り入れるよりも先に医療保険制度を整えるのを優先するという動きにはならないのか疑問を持った。しかし講義を受講することでアメリカの国民性が保険制度に大きく影響している事が理解できた。アメリカでは自分の生活は自分で守るという考えがあり、そのため保険も政府に勝手に決められるのではなく自分で選択したいという意見が多いことを学んだ。日本人の考えではアメリカの保険制度は充実していないように感じがちだが、それはアメリカの国民の意思を尊重した形である事を理解できると、どちらが優れているという考え方が間違っている事を学ぶ事が出来た。国民が望む事を望む方法で行なうということ考えた場合、アメリカの制度にも日本の制度にも長所と短所があるのだと思った。様々な国の医療保険制度を知ることで、どっちが良いかという判断をするのではなく、その国にとって適している制度になっているかを考える視点が重要だと感じた。外国で医療活動を行う際にも他国の制度に優劣をつける事なく尊重し、理解する姿勢が重要だということを考える機会となった。

ハワイ研修を通して得たこととして、自分とは価値観や考え方の違う人と関わる時には自分のものさしだけで優劣をつけるのではなく、相手の置かれた環境や立場を知り、理解する姿勢を持つことが大切である。また、コミュニケーションでは言葉だけでなく気持ちを尊重したいという思いと姿勢が大切であることにも気づくことが出来た。